

国語科学習指導案

広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇〇〇

1 期 間 令和元年〇月〇日 ～ 〇月〇日

2 場 所 第3学年〇組教室

3 学年・組 第3学年〇組

4 指導事項

(1) 第3学年 C 読むこと エ

- ・ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

(2) 第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(イ)

- ・ 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し語感を磨き語彙を豊かにすること。

※ 第2学年の指導事項を扱うのは、指導計画の内容と取扱い1(1)に基づく弾力的な指導。

5 単 元 名 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする 「故郷」

6 言語活動

- ・ 物語を読み、考えたことを語り合う活動(感想交流会～「故郷」が教えてくれること)

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 「故郷」を読み、登場人物の生き方や、作者の意図、作品の価値についての考えをもち、交流を通して考えを深めようとしている。	○ 「故郷」を読み、登場人物のものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会などについて自分の意見をもっている。	○ 作品の主題につながる抽象的な概念を表す語句、対義語や多義的な意味を表す語句に注意し、その語句が表す意味を考えている。

8 単元について

(1) 生徒の状況
(略)

(2) 教材の価値

「考えの形成」とは、読み取ったことを基に、テキストに表されたものの見方、考え方に対する自分の考えをまとめたり広げたり深めたりすることである。そのためには、構成や描写に関する作者の工夫に気付き、その意味を推測したり、読み取ったことと既有知識や経験を結び付け、テキスト全体に対して自分なりの価値付けをしたりすることが必要である。このような「考えの形成」の学習のために「故郷」が適している理由は以下の二点である。

- 構成、描写等、表現の工夫が豊富にある。

「故郷」は優れた文学的表現が随所に見られる作品である。回想場面を合間に挟むことで、「私」の心象風景にある過去の故郷と現在の故郷との差異を強調するという構成の工夫や、情景描写によって「私」の故郷に対する思いの変化を描く(帰郷時：「鉛色の空」→回想時：「紺碧の空」→離郷時：「薄墨色」→結末：「紺碧の空(ルントウの姿はない)」)という描写の工夫等様々に挙げられる。このような作者の工夫に気づき、その意味を推測していく中で、生徒はテキスト全体に対する考えを形成していくことができると考える。また、生徒はこれまでも「変化」「繰り返し」等の作者の工夫に注目して文学的文章を読む学習を行ってきたため、本教材はそれらの既習事項が考えを形成する際にも役立つことを実感させることに適している。

- 多様な解釈が可能であるとともに、社会や人間について考える契機となり得る。

「故郷」には、社会に蔓延する不正や不平等に変革の必要性を感じながらも、変わりゆく「故郷」に何をすることもできない「私」や、厳しい社会状況に抵抗することもなく搾取され続け「心が麻痺し」てしまうルントウ等、辛亥革命後の中国社会における人々の生き方や人間関係の変化、それらに心を揺さぶられる中心人物「私」の姿が描かれている。

自分の考えを広げたり深めたりして確かなものにしていくためには、自分とは異なる多様なものの見方・考え方に触れることが不可欠である。生徒は、テキストの言葉から読み取れるものの見方や考え方を手がかりに、登場人物の生き方や立場の違いに気づき、自分なりにそれぞれの生き方の善し悪しや、作者のメッセージを考えることとなる。それは、「故郷」に描かれた時代と同様に、予測困難な現代を生きる生徒達が、自分ではいかんともしがたい社会の中で人間はどのように生きるのか、これから自分はどのように生きていくのか等、社会の在り方や人間の生き方について自分の考えをもつことに繋がると考える。

(3) 指導の工夫

- テキスト全体の意味を問う「話題」(「キーになる発問」)を生徒に選択させ、考えを書かせる。

自身のこれまでの実践では、教師が用意した発問に沿って、テキストの部分的な解釈を全員で共有しながら読んでいき、最終的にそれらを統合してテキスト全体に対する生徒の考えを表現させる授業が多かった。しかしそれでは、生徒は教師が用意したルールに沿って読み進めていくことになる。そのため、本来考えを形成する上で重要な学習となる、部分的に読み取った内容を生徒自身が関連付けたり、統合したりして、テキスト全体の意味を紡ぎ出していく活動が不十分であった。

そこで、今回は初めに「一番重要な工夫は何か」「一番重要な登場人物は誰か」等、テキスト全体に関わる問い(「キーになる発問」)を話し合いの「話題」として生徒に提示し、生徒の率直な考えを引き出すことから学習を始める。「キーになる発問」は、誰もが考えられる問いであり、かつテキスト全体に関わる問いである。そのため、表面的、部分的な読みに留まることなく、細部と全体を行き来しながら、テキスト全体を俯瞰した考えを形成していくための糸口として有効である。また、「話題」は複数用意し、生徒に選択させることで、生徒自身が考えやすい切り口でテキストに対する考えをもてるよう工夫する。

- 「考えを深める言葉」(「理解方略」)を使って、グループで交流する。

テキストを読み自分の考えを形成するためには、作者の工夫を見付けたり、字句通りではない言葉の意味を推測したり、書かれていることを自分の知識や経験と結び付けたりすることが必要である。そのため、優れた読み手は頭の中で常に「質問」「関連付け(比較)」「推測」等の「理解方略」を用いている。今回の授業では、「理解方略」を、「考えを深める言葉」として生徒に明示し、生徒がグループのメンバー同士で「考えを深める言葉」を用いて、お互いの考えを広げたり深めたりする活動を仕組む。具体的には、話し合いの「話題」に対して、個々が自分なりの考えを書いた後、グループのメンバー同士で「考えを深める言葉」を用いて質問し合う活動を行う。その際、初発の考え、交流時の考えの広がりや深まり、交流後の考えを一枚のシートに可視化するために、「考えの形成シート」を活用する。このような活動をする中で、生徒が「理解方略」を、考えを形成するための方法として認識しながら、テキスト全体に対する自分なりの考えを形成できると考える。最終的には、生徒が一人で「理解方略」を自覚的に用い、考えを形成していくことを目指している。

- 以上二つの工夫を踏まえ、考えを形成する一連の過程を生徒に意識付けるために、【表1】に示す学習活動を単元の中で複数回繰り返す。

【表1】「考えを形成する力」を育成するための学習活動

学習活動	指導の工夫	「考えの形成」の過程
①「話題」に対する自分の考えを書く。	「キーになる発問」	考えをもつ

②グループで交流し、互いに「考えを深める言葉」を使って「考えの形成シート」に付箋で質問や感想を書き合う。	「理解方略」	考えを広げる・深める
③メンバーの付箋に対して考えたことを書き足す。 ※必要に応じて②③を繰り返す。	「理解方略」	考えを広げる・深める
④再度「話題」についての自分の考えを書く。		考えを形成する

9 単元の学習と評価の計画 (全 11 時間)

◎印は特に重点的に指導し評価する

次	時	学習活動	関	読	言	評価規準(評価方法)
一	1	○単元の目標と流れを知る。 ○『こうえんで…4つのお話』を読み、作者の工夫を確認する。		◎		・物語を読んで自分の考えをもつために、場面や登場人物の設定等を捉えて、内容の理解に役立てている。(考えの形成シート①)
	★ 2	○「考えを深める言葉」について知る。 ○【表1】の学習活動に沿って活動する。	○	◎		・物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。(考えの形成シート①) ・物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとしている。(活動の観察, 振り返りシート)
二	3	○「故郷」を通読する。 ○初読の感想や疑問を書く。	◎		○	・物語を読んで初読の感想や疑問を書こうとしている。(初読の感想) ・物語を読む際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(初読の感想)
	4	○人物関係図を全体で確認し、大まかな内容をつかむ。		◎	○	・物語を読んで自分の考えをもつために、場面や登場人物の設定等を捉えて、内容の理解に役立てている。(人間関係図) ・物語の内容を整理する際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(人間関係図)
	★ 5	○作者の工夫を確認する。 ○「話題Ⅰ」の中から一つ～三つ選び、自分の考えを書く。		◎	○	・物語に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもっている。(考えの形成シート②) ・物語に対する考えを書く際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(考えの形成シート②)
三	★ 6	○「話題Ⅰ」について、【表1】の学習活動に沿って活動する。 ※前時のワークシートを基に教師が振り分けたグループで活動する。	○	◎	○	・物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。(考えの形成シート③) ・物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとしている。(活動の観察, 振り返りシート) ・物語の内容を整理する際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(考えの形成シート③)
	★ 7	○「話題Ⅱ」(『故郷』が教えてくれたこと)について、【表1】の学習活動に沿って活動する。	○	◎	○	・物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。(考えの形成シート④) ・物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとしている。(活動の観察, 振り返りシート) ・物語の内容を整理する際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(考えの形成シート④)
	8	○グループで話し合ったことを画用紙に整理する。 ○感想交流会の練習をする。	◎			・物語を読んで考えたことを交流するために、グループの意見を整理しようとしている。(活動の観察, 振り返りシート)
	9	○各グループで話し合ったことを、感想交流会を通して全体で共有する。	◎			・物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとしている。(活動の観察, 交流会の感想)
四	10	○「故郷」について自分が考えたことを感想文にまとめる。		◎	○	・物語に表れているものの見方や考え方について整理し、人間や社会等について自分の意見をもっている。(感想文) ・物語の内容を整理する際に象徴的な表現や対義語, 多義的な意味を表す語等に注意している。(感想文)
	11	○単元の振り返りをする。	◎			・単元を振り返り、自分の考えの広がりや深まりを自覚し、学習したことを価値付けようとしている。(振り返りシート)

★は研究の手立てに当たる時間。

10 本時について

(1) 第1時

ア 本時の目標

- 絵本から作者の工夫を読み取ることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語を読んで自分の考えをもつために、場面や登場人物の設定等を捉えて、内容の理解に役立てている。	絵本の挿絵や言葉、構成に関する作者の工夫（繰り返し、変化、意外性）を読み取り、ワークシートに書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 学習の見通しをもつ。 ★単元の目標：物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする →感想交流会をしよう ☆単元の流れ ①絵本で練習(作者の工夫を探そう) ②絵本で練習(「考えを深める言葉」を使って交流しよう) ③「故郷」通読と初読の感想 ④大まかな内容をつかむ(人物関係図) ⑤⑥⑦「話題I」について考える&交流 ⑧「話題II」について考える&交流 ⑨感想交流会 ⑩まとめ(感想文) ⑪単元の振り返り	○ 学習に対し主体的に取り組む態度で臨めるよう、これまでの経験を基に文学的文章を読む目的について考えさせ、今回は自分の考えを広げたり深めたりすることが目的であると伝える。また、文章を読んで考えを広げたり深めたりするためには、作者の工夫を読み取ることと、考えを深めるための方法(「理解方略」)を学ぶ必要があることを確認する。 ○ 学習の見通しをもたせるために、パワーポイントで単元の目標、言語活動、単元の流れを確認する。	
	2 本時の目標を知る。	絵本から作者の工夫を読み取ることができる。	
展 開	3 「こうえんで…4つのお話」の範読を聴く。	○ 作者の工夫を考えながら読ませるために、既習事項である「変化」「繰り返し」「意外性」等の普通と違うと感じるところ(=作者の工夫)に注意しながら聴くように促す。	<p>読</p> <p>A：絵本の挿絵や言葉、構成に関する作者の工夫を見付け、その効果も考えながらワークシートに書いている。</p> <p>B：絵本の挿絵や言葉、構成に関する作者の工夫を見付け、ワーク</p>
	4 グループで絵本(4人班にコピー2部)を読み、作者の工夫についての気付きをワークシートに書く。 ・一つの出来事が四つの異なる視点で描かれている。 ・登場人物によって公園の背景の描き方が異なる。	○ 作者の工夫に対する気付きを書かせるために、「なぜか登場人物がゴリラである(意外性)」「○○の場面が何度も出てくる(繰り返し)し、比べると●●が変化している(変化)」等、書き方のモデルを示す。 C：挿絵に注目させる。繰り返し出てくる場面や普通と違う表現に注目させる。	

	5 作者の工夫についての 気づきをグループごとに ホワイトボードにまとめ 全体で共有する。	○ 次時の活動(絵本について自分の考えをもつ) に活かすために、絵本全体の意味を捉えることに 繋がる作者の工夫を全員で共有させる。 ・ 一つの話をもつ <u>視点</u> で書いている(変化) ・ 同じ <u>場面</u> が繰り返されている(繰り返し) ・ 人によって公園の <u>背景</u> やフォントが異なる(変 化, 意外性)	シートに書いて いる。
ま と め	6 本時の振り返りをす る。	○ めあてを意識した振り返りになるよう、「作者 の工夫を読み取ることができたか」という視点で 振り返りシートに記入させる。	

エ 板書計画

ホワイト ボード	ホワイト ボード	ホワイト ボード	<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」(①絵本で練習) 本時のめあて</p> <p>☆ 絵本から作者の工夫を読み取ることができる。</p> <p>← 変化、繰り返し(対比)、意外性：普通と違うところ</p> <p>〈作者の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物がゴリラ ・ 同じ場面が繰り返されている&変化している (花を渡す場面、父が公園に行く場面と帰る場面) ・ 一つの出来事を四つの視点で書いている ・ 人によって公園の背景が異なる ・ 人によってフォントが異なる
ホワイト ボード	ホワイト ボード	ホワイト ボード	
ホワイト ボード	ホワイト ボード	ホワイト ボード	

(2) 第2時

ア 本時の目標

- 「考えを深める言葉」を使って交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。	「考えを深める言葉」を使って交流し、「話題」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的にしたりしてワークシートに書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。 ①「話題」についての自分の考え(1) ②「考えを深める言葉」を使ってグループで交流(付箋を貼り合う) ③「話題」についての自分の考え(2)	○ 前時の学習との繋がりをもたせるために前時に学習した作者の工夫が、本時で考えを書く際の根拠となることを確認する。 ○ 本時の学習の見通しをもつために、考えを広げたり深めたりするためには「考えを深める言葉」を使う必要があることを伝え、パワーポイントで本時の流れを確認する。	
	2 本時の目標を知る。	「考えを深める言葉」を使って交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	
展 開	3 グループで選んだ「話題」(「キーになる発問」)について、「考えの形成シート」に自分の考えを書く。 【話題】 ① この作品の中で一番重要なところや、一番印象深いところはどこだと思いますか？その理由も教えてください。 ② この作品の中で一番驚いたところはどこですか？その理由も教えてください。また、その部分がなかったらこの話はどのように変わりますか？ ③ この作品で作者がしている最も重要な工夫は何だと思いますか？また、それはどのような効果があると思いますか？ ④ 最も重要な登場人物は誰だと思いますか？その理由も教えてください。また、その人がいなかったらこの話はどのように変わりますか？	○ グループ交流に入る前に共通の「話題」を定め、それに対する自分の考えをもたせるために、書きやすい「話題」をグループで選ばせ、ワークシートに考えを書かせる。 ○ 交流に向けて自分の考えの根拠を明確にさせるために、前時で押さえた作者の工夫を根拠として考えを書くよう促す。	
	4 「考えを深める言葉」とは何かを知り、交流の仕方を確認する。	○ 交流の方法を理解させるとともに、「考えを深める言葉」の「質問」「関連」「推測」の違いを説明するために、モデルをパワーポイントで示す。 ○ 考えを広げたり深めたりするためには、「質問」することが特に重要だと気付かせる	

作品：「春に」
 話題：「作者の工夫とその効果について」
 考え(1)：
 「この気持ちはなんだろう」が4回繰り返されている。自分で自分の気もちがわからないことを強調する効果がある。
 交流：
 なぜわざわざ分からない気もちを書いたのか？(質問)
 たぶん春の気もちを表していると思うが、どう？(推測)→おそらく春に感じる不安と期待を描いているのだろう。
 自分ならよく分からない時には人に話したくなると思うが、どう？(関連)→もやもやした気持ちを人に伝えてどうにかしたいという経験、私もある。
 考え(2)：
 「この気持ちはなんだろう」が4回繰り返されている。なぜ四回も繰り返されているのだろうか。春は何かを始めたいという期待と不安が混ざって複雑な気もちになる。そのもどかしさを一人で抱えきれなくて、何度も「この気持ちはなんだろう」と繰り返し、読み手に「気もち」の内容を考えさせている。

ために、交流のモデルを見て、考えが深まるきっかけを与えている最も重要な「考えを深める言葉」はどれかを考えさせる。

展開

5 グループで「考えの形成シート」を交流し、「考えを深める言葉」を使って、お互いに付箋を貼り合う。
 グループ内で二人ずつのペアに分かれる。二人で相手への質問を考えて付箋を貼る。

○ 幅広く「考えを深める言葉」を使って考えを広げたり深めたりするために、できるだけ三種の付箋を使うことを促す。
 C：付箋の書き方のパターンを教える。教師と一緒に考え、モデルを示す。
 (例：根拠がない時→「本文のどこからそう思ったのですか」)

6 「考えの形成シート」を交換する人を変えて、5の過程を繰り返す。

交流の手順～ペアで協力して質問を考えよう

A	C
B	D

①AとBはCのワークシートに、CとDはAのワークシートに対して、それぞれ質問を書いた付箋を貼り、返す。

A	C
B	D

②AとBはDのワークシートに、CとDはBのワークシートに対して、それぞれ質問を書いた付箋を貼り、返す。

7 自分の「考えの形成シート」に貼られた付箋を見て、ワークシートにさらに考えを書き加える。

○ 生徒の思考が止まらないように、付箋に対する反応がすぐに思い付かない場合には、付箋をワークシートの隅等に置き、保留しても良いと伝える。
 C：付箋に書かれた質問の意図を相手に確認させたり、質問に対する答えを考えるために参照すべき本文の箇所を教えたりする。

8 再度グループ内で自由に「考えの形成シート」を交流し、必

○ 「考えを深める言葉」によってお互いの考えが広がったり深まったりしたことを自覚

	<p>要であれば付箋やメモを書き足す。</p> <p>9 交流したことを踏まえて、再度「話題」に対する自分の考えを書く。</p> <p>10 最終的な自分の考えをグループで交流した後、全体で共有する。</p>	<p>させるために、付箋(「考えを深める言葉」とそれに対する応答(深まった考え)のつながりを確認させる。</p> <p>○ 考えの広がりや深まりを生徒に表現させるために、交流を通して、初めに書いた自分の考えから変化したことや、具体的に変わったことを踏まえて書くよう指示する。</p> <p>C:「考えの形成シート」に貼られた付箋の質問と、自分のメモ欄に書いた答えをつないだり、新たに分かった点や詳しくなった点を箇条書きにしたりするよう助言する。</p> <p>○ 自分の書いた付箋(=「考えを深める言葉」)が相手の考えの形成に寄与した実感をもてるよう、お互いの「考えの形成シート」を交換し、付箋とそれに対する応答、それらを踏まえた最終的な相手の考えのつながりを確認させる。</p> <p>○ 学習の達成モデルを示すために、交流を踏まえて、考えが広がったり深まったりしている生徒に発表させ、価値付ける。</p>	<p>読</p> <p>A: 交流の中で得た新たな根拠や考えを繋ぎ合わせ、初めの考えを発展させたり具体的にしたりして書いている。</p> <p>B: 交流の中で得た新たな根拠や考えを踏まえて、初めの考えに付け加えて書いている。</p>
ま と め	11 本時の振り返りをする。	○ めあてを意識した振り返りになるよう、「考えを深める言葉」を使って交流できたか、「自分の考えを深めたり広げたりできたか」という視点で振り返りシートに記入させる。	

エ 板書計画

	<p>「考えを深める言葉」 : 考えを具体的にしたり、広げたり、発展させたりするための言葉</p> <p>○質問: 黄色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜなのか? ・どのようにするのか? ・本文のどこからそう思ったのか? ・具体的にはどのようなことなのか? など <p>○関連付け(比較): 青</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○(タイトル・場面・言葉・他の作品...)とつながると思うが、どう? ・○○と似ている(逆だ)と思うが、どう? ・自分ならどう思うが、どう? など <p>○推測: 赤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめるとどう思うか、どう? ・たぶんどう思うか、どう? ・もし○○ならどう思うか、どう? など <p>○その他: 緑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○に共感する ・○○は違うと思う、なぜなら... ・このあとはどう思うか、どう? など 	<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」(②絵本で練習)</p> <p>☆ 本時のめあて 「考えを深める言葉」を使って交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>
--	--	---

(3) 第3時

ア 本時の目標

- 物語を読んで、初読の感想や作者の工夫への気付き、疑問を書こうとすることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
関心・意欲・態度	物語を読んで初読の感想や作者の工夫への気付き、疑問を書こうとしている。	「故郷」を通読し、印象に残ったことや作者の工夫(繰り返しや変化)への気付き、疑問を書こうとしている。

ウ 本時の学習過程

	学習活動	指導上の留意事項 (C:配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>★単元の目標：物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする →感想交流会をしよう ☆単元の流れ ①絵本で練習(作者の工夫を探そう) ②絵本で練習(「考えを深める言葉」を使って交流しよう) ③「故郷」通読。初読の感想 ④意味調べ ⑤大まかな内容をつかむ(人物関係図) ⑥⑦「話題Ⅰ」について考える&交流 ⑧⑨「話題Ⅱ」について考える&交流 ⑩感想交流会 ⑪まとめ(感想文) ⑫単元の振り返り</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「故郷」を読んで自分の考えをもち、広げたり深めたりするために、前時までに学習したこと(作者の工夫を読み取ることや「考えを深める言葉」を使って考えを深めること)を「故郷」の学習に生かしていくことを確認する。 ○ 学習の見通しをもたせるために、パワーポイントで再度単元の目標と言語活動、単元の流れを確認し、本時は作者の工夫に注意しながら「故郷」を通読することを伝える。 	
	2 本時の目標を知る。	通読し、初読の感想や作者の工夫への気付き、疑問を書くことができる。	
展 開	3 「故郷」に関する基本的な知識を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の舞台をイメージしやすいように、パワーポイントや資料集を使って知識を与える。その際、作品の言葉に向き合うことが中心となるよう、提示する資料は最低限に留める。 ・ 魯迅は中国近代文学の父と呼ばれる程著名な作家である。 ・ 舞台は二十世紀の中国であり、その頃の中国は不安定な世情であった。 	
	4 作者の工夫や疑問に思うことに注意しながら、通読する。	○ 読む視点を定めるために、前時までに学習したことを生かし、作者の工夫(変化、繰り返し等)に注意しながら読むことを確認する。	
	5 登場人物とその関係を簡単に確認する。	○ 感想を書く上での基本的な情報を整理するために、登場人物とその関係を簡単に確認	

	<p>6 ワークシートに初読の感想や作者の工夫への気付き, 疑問を書く。</p>	<p>する。</p> <p>○ 生徒の率直な考えを引き出すために, 全ての行を埋める必要はないこと, 書きやすい項目から書けばよいことを伝える。</p> <p>C : 繰り返し出てくる描写や言葉, 違和感のある登場人物の行動等に注目させる。</p> <p>C : 印象に残ったり, 疑問に思ったりした言葉や文を書き抜くだけでもよいと伝える。</p>	<p>関</p> <p>A : 印象に残ったことや作者の工夫への気付き, 疑問を書き, 工夫の効果や疑問に対する答えについて考えたことも書こうとしている。</p> <p>B : 印象に残ったことや作者の工夫への気付き, 疑問を書こうとしている。</p>
<p>まとめ</p>	<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう, 「初読の感想や疑問, 作者の工夫についての気付きが書けたか」という視点で振り返りシートに記入させる。</p>	

エ 板書計画

感想交流会をしよう
物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする

「故郷」③

本時のめあて

☆ 通読し, 初読の感想や作者の工夫への気付き, 疑問を書くことができる。

(登場人物, 場面, 情景描写等の)
変化, 繰り返し(対比), 意外性 ←

○ 作者
魯迅 : 中国近代文学の父

○ 舞台
二十世紀の中国 : 不安定な世情

○ 登場人物

- ・ 「私」(迅)
- ・ 「私」の母と父
- ・ ホンル(「私」の甥)
- ・ ルントウ(「私」の幼なじみ)
- ・ ルントウの父
- ・ シュイション(ルントウの五番目の子)
- ・ (五歳になる女の子)
- ・ ヤンおばさん(近所の豆腐屋)

(4) 第4時

ア 本時の目標

- 物語を読んで自分の考えをもつために、場面や登場人物の設定等を捉えて内容の理解に役立てることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語を読んで自分の考えをもつために、場面や登場人物の設定等を捉えて内容の理解に役立っている。	登場人物の関係や人物像とその変化を読み取り、人物関係図に整理している。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習との繋がりをもたせるために、前時に書かせた初読の感想の中から、登場人物の関係や人物像とその変化に触れているものを紹介する。 ○ 学習の見通しをもたせるために、改めてパワーポイントで単元の流れを確認する。 ○ 「故郷」について自分の考えをもつ上で、登場人物の関係や人物像とその変化等物語の枠組みを確認する必要があるため、本時は人物関係図を書くことを伝える。 	
	2 本時の目標を知る。	人物関係図を書き、登場人物の関係や人物像とその変化を読み取ることができる。	
展 開	3 登場人物を確認し、大まかな関係を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の大まかな関係(家族関係等)を確認するために、黒板に人物カードを貼って整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「私(シュン)」の家族とルントウの家族に分かれる。 ・ ヤンお婆さんは「私」の近所に住んでいる豆腐屋である。 	<p>読</p> <p>A：登場人物の関係や人物像とその変化を、根拠を明確にして読み取り、人物関係図に整理している。</p> <p>B：登場人物の関係や人物像とその変化を読み取り、人物関</p>
	4 教科書の言葉を根拠としながら、登場人物の関係や人物像とその変化を読み取り、ワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の言葉を基にしなが読み取らせるために、根拠となる言葉に線を引いたり、教科書のページや行をワークシートにメモしたりするよう指示する。 ○ 登場人物の関係や人物像とその変化を的確に読み取らせるために、人物の見た目の描写や行動、台詞、呼び名等に注意して読むよう促す。 C：参照すべき教科書のページを教えて、情報 	

	<p>5 グループでワークシートの内容を確認する。</p> <p>6 読み取った内容を全体で共有する。</p>	<p>を一緒に探す。</p> <p>○ 読み取った内容が適切かどうかを吟味させるために、根拠となる本文の言葉を明らかにしながら互いのワークシートを確認させる。</p> <p>○ 「故郷」について自分の考えをもつ上で必要な登場人物の関係や人物像とその変化を全員で共有するために、読み取った内容を発表させ、確認する。</p> <p>○ 読み取った内容が適切かどうかを吟味するために、根拠となる本文の言葉を明らかにしながら発表させる。</p>	<p>係図に整理している。</p>
<p>まとめ</p>	<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、「登場人物の関係や人物像とその変化を読み取れたか」という視点で振り返りシートに記入させる。</p>	

エ 板書計画

<p style="text-align: right;">感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする 「故郷」④</p> <p style="text-align: right;">本時のめあて ☆ 人物関係図を書き、登場人物の関係や人物像とその変化を読み取ることができる。</p> <p style="text-align: right;">※ワークシート参照</p>

(5) 第5時

ア 本時の目標

- 物語に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもっている。	「話題Ⅰ」(最も重要な工夫は何か、最も重要な登場人物は誰か等)について、作者の工夫を踏まえながら自分の考えを書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の目標を知る。	○ 前時の学習との繋がりをもたせるために前時に「故郷」の大まかな内容や工夫を押さえたことを確認し、それを基に本時では物語に対して自分なりの考えを形成していく学習に入ることを伝える。	
	作者の工夫を踏まえて、「話題Ⅰ」について自分の考えを書くことができる。		
展 開	2 本時の学習の見通しをもつ。	○ 本時の学習に見通しをもたせるために、絵本の学習の際に深まった感想を提示し、作者の工夫に着目することが考えをもつために有効であることを想起させる。	
	3 前時や初読の感想の中で出てきた作者の工夫を確認する。	○ 「話題Ⅰ」(板書計画参照)についての考えを書く時間を確保するために、作者の工夫の内、前時に学習した作者の工夫(登場人物の関係や人物像の変化等)については教師主導で確認する。また、初読の感想に生徒が記述した作者の工夫への気づきを事前に教師がプリントに整理しておき、紹介する。	
	4 作者の工夫を改めて探し、全体で共有する。	○ 「話題Ⅰ」について考える上で重要な手がかりとなる作者の工夫(板書計画参照)が明らかになっていなければ、全体で共有し把握させるために「変化」「繰り返し」「意外性」といった観点を再度示しながら、改めて作者の工夫を本文から探させる。 C：「故郷の様子を表す色の変化に注意してみよう」「再会の場面と最後の場面で同じ言葉が繰り返されているよ」等助言し、探す対象を具体的に絞り込む。	
	5 「話題Ⅰ」から一つ選び、問いに対する自分の考えを書く。	○ 物語に対して主体的に考えをもてるよう、	

	<p>【話題Ⅰ】</p> <p>① この作品の中で一番重要な場面はどこだと思いますか？その理由も教えてください。(重要な要素を確認する)</p> <p>② この作品で作者がしている最も重要な工夫は何だと思いますか？また、それはどのような効果があると思いますか？(作者の工夫に注意を向ける)</p> <p>③ (中心人物以外で)最も重要な登場人物は誰だと思いますか？理由も教えてください。また、その登場人物はこの作品の中でどのような役割を果たしていると思いますか？(重要な要素を確認する)</p> <p>④ 中心人物の行いや考えについてあなたはどのように思いますか？(共感できますか？できませんか？)その理由も教えてください。(物語についての感じ方を表現する)</p>	<p>物語全体に関わり、かつそれぞれ切り口が異なる4つの「話題」を示し、生徒に選択させる。</p> <p>○ 本文に基づいて考えさせるために、確認した作者の工夫から考えの根拠となるものを見付けるよう促す。</p> <p>C：書けそうな「話題」を一つ選ばせ、教師が「その登場人物がいなかったら一番物語の内容が変わりそうなのは誰だろう」「自分が一番苦手だと感じる登場人物は誰だろう」等、問いの言葉をより具体的なものに置き換えて問いかけながら書かせる。</p>	<p>【読】</p> <p>A：「話題Ⅰ」について、作者の工夫を踏まえながら、筋道立てて自分の考えを書いている。</p> <p>B：「話題Ⅰ」について、作者の工夫を踏まえながら自分の考えを書いている。(ワークシート)</p>
ま と め	7 本時の振り返りをする。	○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、作者の工夫を踏まえて「話題Ⅰ」について考えが書けたかという視点で振り返りシートに記入させる。	

エ 板書計画

<p>④ 中心人物の行いや考えについてあなたはどのように思いますか？(共感できますか？できませんか？)その理由も教えてください。</p> <p>③ (中心人物以外で)最も重要な登場人物は誰だと思いますか？理由も教えてください。また、その登場人物はこの作品の中でどのような役割を果たしていると思いますか？</p> <p>② この作品で作者がしている最も重要な工夫は何だと思いますか？また、それはどのような効果があると思いますか？</p> <p>① この作品の中で一番重要な場面はどこだと思いますか？その理由も教えてください。</p>	<p>物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」⑤</p> <p>本時のめあて</p> <p>☆ 作者の工夫を踏まえて、「話題Ⅰ」について自分の考えを書くことができる。</p> <p>〈作者の工夫〉</p> <p>○変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルントウの人物像 ・ ヤンおばさんの人物像 ・ ルントウやヤンおばさんと「私」の関係 <p>○繰り返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紺碧の空、金色の丸い月 ・ 壁 ・ 希望 ・ 色(鉛色、薄墨色など) ・ どきっとした <p>○意外性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルントウが「旦那様」と言った ・ ルントウが腕を灰の中に隠した ・ ヤンおばさんが当然のように人の物を盗る <p>〈話題Ⅰ〉</p>
---	--

(6) 第6時

ア 本時の目標

- 物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。	「考えを深める言葉」を使って交流し、「話題Ⅰ」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的にしたりしてワークシートに書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の目標を知る。	○ 前時の学習との繋がりをもたせるために前時に書いた「話題Ⅰ」についての自分の考えを、交流によって広げたり深めたりすることが本時の目標だと確認する。	
	「考えを深める言葉」を使って交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(話題Ⅰ)		
展 開	2 本時の学習の見通しをもつ。 ①「話題Ⅰ」についての自分の考えの確認(1) ②「考えを深める言葉」を使ってグループで交流(付箋を貼り合う) ③メンバーが貼った付箋に対する考えをメモする ④グループ交流(必要に応じて付箋を貼る) ⑤「話題Ⅰ」についての自分の考えを書く(2)	○ 本時の学習の見通しをもつために、第1～2時で行った絵本についての交流を想起させ、本時の学習過程(交流の手順)をポイントで確認する。	
	3 「考えを深める言葉」とは何かを復習し、交流のイメージをもつ。	○ 「考えを深める言葉」を復習するとともに学習の達成モデルを示すために、絵本の学習の際、「考えを深める言葉」を使いながら交流し、考えを広げたり深めたりできていた生徒のワークシートを紹介する。	
	4 グループで「考えを深める言葉」を使いながら自分の考えについて交流し、「考えの形成シート」に付箋を貼り合う。 ① グループ内で二人ずつのペアに分かれ、二人で相手への質問を考えて付箋を貼る。 ② 質問する相手を変えて、①の過程を繰り返す。	○ 幅広く考えを広げたり深めたりするために、できるだけ三種の「考えを深める言葉」を使うことを促す。 C：付箋の書き方のパターンを教える。教師と一緒に考え、モデルを示す。 (例：根拠がない時→「本文のどこからそう思ったのですか」)	



<p>展 開</p>	<p>5 貼られた付箋に対する答えや新たに考えたことを「考えの形成シート」に書き加える。</p> <p>6 再度グループ内で「考えの形成シート」を交流し、必要であれば付箋やメモを書き足す。</p> <p>7 交流したことを踏まえて、再度「話題」に対する自分の考えを書く。</p> <p>8 最終的な自分の考えをグループで交流した後、全体で共有する。</p>	<p>○ 生徒の思考が止まらないように、付箋に対する反応がすぐに思い付かない場合には、付箋を「考えの形成シート」の隅等に置き、保留しても良いと伝える。</p> <p>C : 付箋に書かれた質問の意図を相手に確認させたり、質問に対する答えを考えるために参照すべき本文の箇所を確認させたりする。</p> <p>○ 「考えを深める言葉」によってお互いの考えが広がったり深まったりしたことを自覚させるために、付箋(「考えを深める言葉」とそれに対する応答(深まった考え)のつながりを確認させる。</p> <p>○ 考えの広がりや深まりを生徒に表現させるために、交流を通して、初めに書いた自分の考えから変化したことや、具体的に変わったことを踏まえて書くよう指示する。</p> <p>C : 「考えの形成シート」に貼られた付箋の質問と、自分のメモ欄に書いた答えをつないだり、新たに分かった点や詳しくなった点を箇条書きにしたりするよう助言する。</p> <p>○ 自分の書いた付箋(「考えを深める言葉」)が相手の考えの形成に寄与した実感をもてるよう、お互いの「考えの形成シート」を交換し、付箋とそれに対する応答、それらを踏まえた最終的な相手の考えのつながりを確認させる。</p> <p>○ 学習の達成モデルを示すために、交流を踏まえて、考えが広がったり深まったりしている生徒に発表させ、価値付ける。</p>	<p>読</p> <p>A : 「考えを深める言葉」を使って交流し、交流の中で得た新たな根拠や考えを筋道立てて繋ぎ合わせ、「話題Ⅰ」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的にしたりして書いている。</p> <p>B : 「考えを深める言葉」を使って交流し、交流の中で得た新たな根拠や考えを踏まえて、「話題Ⅰ」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的にしたりして書いている。</p> <p>(ワークシート)</p>
<p>ま と め</p>	<p>9 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、「考えを深める言葉」を使って交流できたか、自分の考えを広げたり深めたりすることができたかという視点で振り返りシートに記入させる。</p>	

感想交流会をしよう
物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする

「故郷」⑥

本時のめあて

☆ 「考えを深める言葉」を使って交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(話題Ⅰ)

「考えを深める言葉」

…考えを具体的にしたり、多面的なものにしたり、発展させたりするための言葉

○質問：黄色

- ・なぜ？なのか？
- ・どのように？なのか？
- ・本文のどこからそう思ったのか？
- ・具体的にはどのようなことなのか？ など

○関連付け(比較)：青

- ・○○(タイトル・場面・言葉・他の作品…)とつながると思うが、どう？
- ・○○と似ている(逆だ)と思うが、どう？
- ・自分なら？と思うが、どう？ など

○推測：赤

- ・まとめると？ということだと思うが、どう？
- ・たぶん？ということだと思うが、どう？
- ・もし○○なら？だと思うが、どう？ など

○その他：緑

- ・○○に共感する
- ・○○は違うと思う、なぜなら…
- ・このあとは？と思うが、どう？ など

(7) 第7時

ア 本時の目標

- 物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語に表れているものの見方や考え方について整理し、交流して自分の考えを広げたり深めたりしている。	「考えを深める言葉」を使って、「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）についての自分の考えを發展させたり、根拠を具体的にしたりしてワークシートに書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時の学習を想起し、本時の目標を知る。	○ 前時の学習との繋がりをもたせるために「話題Ⅰ」について考えたことを基に、本時では自分なりに「故郷」という作品のテーマを考えることを確認する。	
	「考えを深める言葉」を使って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(話題Ⅱ)		
展 開	2 本時の学習の見通しをもつ。	○ 本時の学習に見通しをもたせるために、「話題Ⅰ」で自分の考えを広げたり深めたりした付箋の言葉を発表させ、「考えを深める言葉」の効果を想起させる。	
	3 「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）についての自分の考えを書く。	○ 授業を通して広がったり深まったりした自分の考えを踏まえながら作品全体の価値を考えさせるために、これまでに押さえた作者の工夫や、「話題Ⅰ」についての自分の考えを参照しながら書かせる。	
	「最も重要な工夫とその効果」という話題に対して、「一つの出来事を四つの視点から描き、人によってももの見え方が異なるということを伝える効果がある」と考えた。このことから、この絵本は「人によってももの見え方が異なるから、時には視点を変えて物事を見ることが大切だ」ということを教えてくれると思う。	○ 書く内容のイメージがもてるように、単元の初めに読んだ絵本を例にしてパワーポイントでモデルを示す。	
	4 自分の書いた考えを読み直し、「考えを深める言葉」を使って自分で付箋を貼り、それに対する考えを書き加える。	○ 一人で「考えを深める言葉」を使って考えを広げたり深めたりさせるために、「質問」の言葉を使った付箋を一枚書かせることで「考えを深める言葉」が自己対話にも生かせることを実感させる。	
	5 グループで「考えの形成シート」を交流し、「考えを深める	○ 一人で「考えを深める言葉」を使えるようにさせるために、今回はペアに分かれず、グ	

展 開	<p>言葉」を使ってお互いに付箋を貼り合う。</p>	<p>ループのメンバー全員で一斉に「考えの形成シート」を交流し、各自で付箋を貼るよう指示する。</p> <p>C：一人で付箋を貼ることが難しい場合は、ペアで質問を考えてもよいことを伝える。</p>	
	<p>6 貼られた付箋に対する答えや新たに考えたことを「考えの形成シート」に書き加える。</p>	<p>○ 生徒の思考が止まらないように、付箋に対する反応がすぐに思い付かない場合には、付箋を「考えの形成シート」の隅等に置き、保留しても良いと伝える。</p> <p>C：付箋に書かれた質問の意図を相手に確認させたり、質問に対する答えを考えるために参照すべき本文の箇所を教えたりする。</p>	
	<p>7 再度グループ内で「考えの形成シート」を交流し、必要であれば付箋やメモを書き足す。</p>	<p>○ 「考えを深める言葉」によってお互いの考えが広がったり深まったりしたことを自覚させるために、付箋（「考えを深める言葉」）とそれに対する応答（深まった考え）のつながりを確認させる。</p>	
	<p>9 交流したことを踏まえて、再度「故郷が教えてくれること」について自分の考えを書く。</p>	<p>○ 考えの広がりや深まりを生徒に表現させるために、交流を通して、初めに書いた自分の考えから変化したことや、具体的に変わったことを踏まえて書くよう指示する。</p> <p>C：「考えの形成シート」に貼られた付箋の質問と、自分のメモ欄に書いた答えをつないだり、新たに分かった点や詳しくなった点を箇条書きにしたりするよう助言する。</p>	<p>読</p> <p>A：「考えを深める言葉」を使って交流し、交流の中で得た新たな根拠や考えを筋道立てて繋ぎ合わせ、「話題Ⅱ」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的にしたりして書いている。</p>
<p>10 最終的な自分の考えをグループで交流する。</p>	<p>○ 自分の書いた付箋（「考えを深める言葉」）が考えの形成に寄与した実感を与えるために、お互いの「考えの形成シート」を確認させる。</p>	<p>B：「考えを深める言葉」を使って交流し、交流の中で得た新たな根拠や考えを踏まえて、「話題Ⅱ」についての自分の考えを発展させたり、根拠を具体的に</p>	

			したりして書いています。 (ワークシート)
まとめ	11 本時の振り返りをする。	○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、「考えを深める言葉」を使って交流できたか、「故郷」が教えてくれることについて自分の考えを広げたり深めたりすることができたかという視点で振り返りシートに記入させる。	

エ 板書計画

	<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」⑦</p> <p>☆ 本時のめあて これまで読み取ったことや考えたことを基に、「故郷が教えてくれること」について自分の意見を書く。</p> <p>「考えを深める言葉」 ：考えを具体的にしたり、多面的なものにしたり、発展させたりするための言葉</p> <p>○ 質問：黄色 ・なぜ？なのか？ ・どのように？なのか？ ・本文のどこからそう思ったのか？ ・具体的にはどのようなことなのか？ など</p> <p>○ 関連付け（比較）：青 ・○○（タイトル・場面・言葉・他の作品…）とつながると思うが、どう？ ・○○と似ている（逆だ）と思うが、どう？ ・自分なら～と思うが、どう？ など</p> <p>○ 推測：赤 ・まとめると～ということだと思うが、どう？ ・たぶん～ということだと思うが、どう？ ・もし○○なら～だと思うが、どう？ など</p> <p>○ その他：緑 ・○○に共感する ・○○は違うと思う、なぜなら… ・このあと～と思うが、どう？ など</p>	
--	--	--

ア 本時の目標

- 物語を読んで考えたことを交流するために、グループの意見を整理しようとするができる。

イ 本時の評価規準

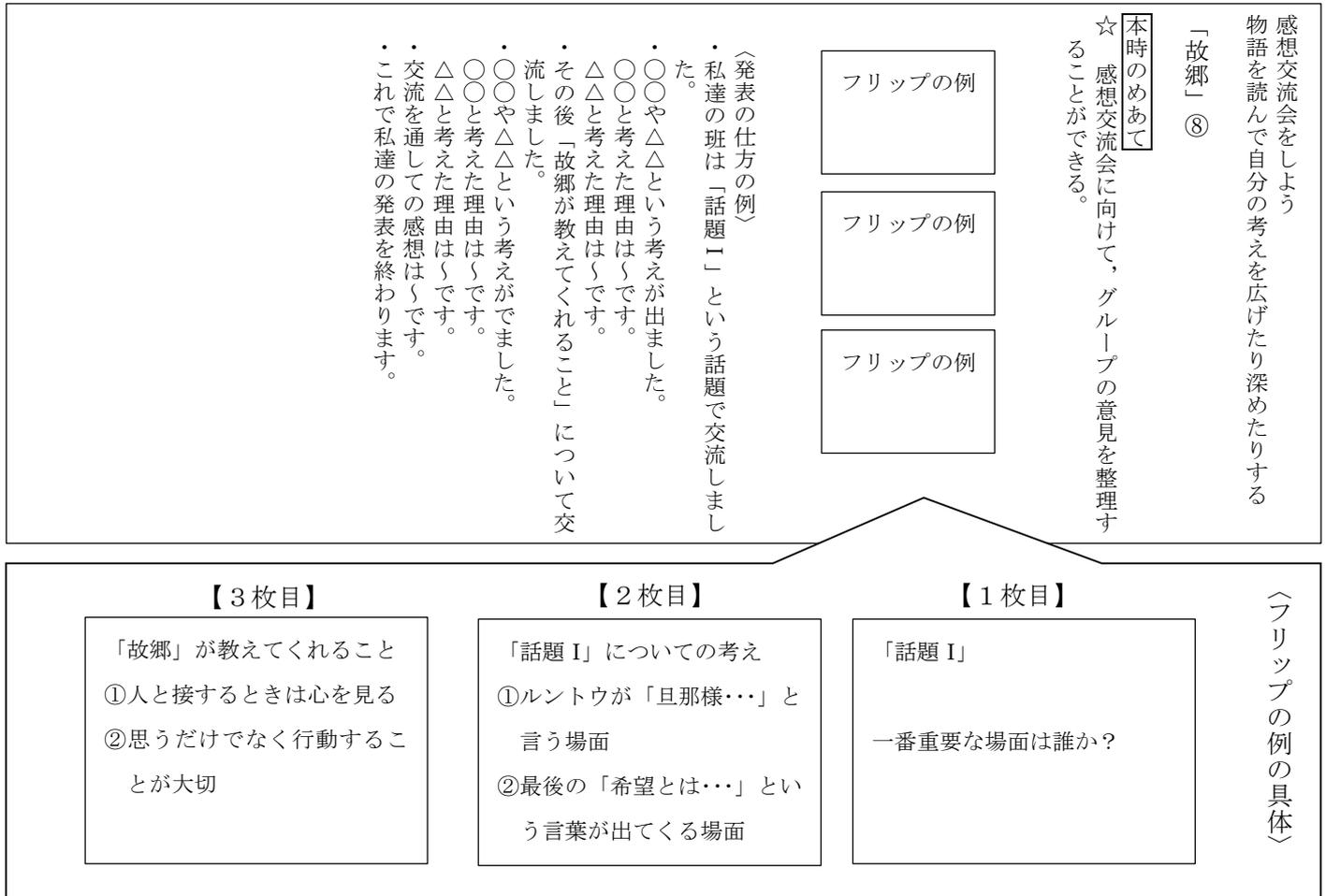
観点	評価規準	具体的な生徒の姿
関心・意欲・態度	物語を読んで考えたことを交流するために、グループの意見を整理しようとしている。	「話題Ⅰ」と「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）についてグループで出た考えの共通点や相違点を整理し、要点をまとめようとしている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時までの学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。	○ 前時までの学習との繋がりをもたせるために「話題Ⅰ」、「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）について交流することによって自分の考えを広げたり深めたりしたことを確認し、本時では次時の感想交流会に向けてグループで意見を整理することを伝える。	
	2 本時の目標を知る。		感想交流会に向けて、グループの意見を整理することができる。
展 開	3 感想交流会に向けての準備の手順を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ① フリップを作る 1 「話題Ⅰ」 2 「話題Ⅰ」に対する考え 3 「故郷」が教えてくれることに対する考え ② 役割分担をして話す練習をする ※一人一回は話す場面を作る。 ※考えを一つにまとめるのではなく、どのような考えが出たかを伝える。 ※考えた理由も口頭で説明する。 </div>	○ 手順を分かりやすく伝えるために、パワーポイントを用いて説明する。 ○ 達成目標を分かりやすく伝えるために、フリップの書き方を例示する。 1 枚目：「話題Ⅰ」 2 枚目：「話題Ⅰ」に対する考え 3 枚目：「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）に対する考え ○ 考えを広げたり深めたりするという単元の目標に沿った活動にするために、グループで出た考えを一つにまとめる必要はなく、メンバーの意見の共通点と相違点を明らかにして整理し、どのような考えが出たか、なぜそのように考えたのかを説明することを重視させる。	
	4 グループでフリップを作り、感想交流会の練習をする。	○ グループの中で出た意見を適切にまとめるために、これまでに書いた「考えの形成シート」を参照しながら、メンバーの考えを共通点と相違点に分けて整理させる。 C：共通点や相違点を見出すための観点を教師が例示する。（重要な登場人物として同じ人物を取り上げている人はいなかったかな？	関 A：「話題Ⅰ」と「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）についてグループで出た考えの共通点や相違点を整理し、説明

展 開		「故郷」のテーマを一言で言うとそれぞれ何だと思っているのかな？等)	<p>の順序を考える等分かりやすく伝えるための工夫をしようとしている。</p> <p>B：「話題Ⅰ」と「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）についてグループで出た考えの共通点や相違点を整理し、要点をまとめようとしている。</p> <p>(フリップ、観察)</p>
ま と め	5 本時の振り返りをする。	○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、感想交流会に向けてグループの意見を整理することができたかという視点で振り返りシートに記入させる。	

エ 板書計画



(9) 第9時

ア 本時の目標

- 物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとするができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
関心・意欲・態度	物語について自分の考えをもち、交流して考えを広げたり深めたりしようとしている。	感想交流会を通して、自分と他者の考えの共通点や相違点を知らうとしている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導入	1 前時を振り返り本時の目標を知る。	○ 前時との繋がりをもたせるために、「話題Ⅰ」(最も重要な場面はどこか等)、「話題Ⅱ」(「故郷」が教えてくれること)についてグループで出た意見を共通点、相違点を視点に整理したことを想起させる。その際、本時の交流会においても自分の考えと比べながら聴くことで「考えを深める言葉」が使いやすくなることを、例を挙げて確認する。	
	感想交流会を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		
展開	2 本時の学習の見通しをもつ。 ○目的 考えを広げたり深めたりすること ○発表の手順 ・フリップを出しながらグループで出た意見を説明する ・理由は口頭で説明する ・発表後質疑応答の時間をとる ※聴き手はメモをとりながら聴くこと	○ 本時の見通しをもたせるために、交流会の目的と手順をパワーポイントで再確認する。	
	3 感想交流会をする。	○ 感想交流会を通して、自分の考えを広げたり深めたりできるよう、メモ用紙に自分の考えとの共通点、相違点を書き留めるよう指示する。特に根拠となる作者の工夫やその解釈の違いに注意させる。 ○ 他のグループから発表された考えを、より広げたり深めたりすることで、自分の考えを書く際の参考にできることを伝え、「考えを深める言葉」を使って質問することを促す。 ・ 発表の中で○○と考えたと言っていました、理由をもう少し具体的に教えてください。 ・ 私達はグループの中で意見が分かれたことがあったのですが、そのようなことはなかったですか。分かれた理由は何でしたか。等	関 A：感想交流会を通して、自分と他者の考えの共通点や相違点を知り、自分の考えに付け加えたり修正したりしようとしている。 B：感想交流会を通して、自分と他者の考えの共通点や相違点を知らうとしている。 (ワークシート、観察)

		C : 発表者のフリップを見ながら、それぞれの意見をメモさせ、後から自分の考えとの共通点や相違点を探し、印をつけるよう指示する。	
まとめ	4 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点を知ること、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができるということを全員で共有するために、気付きがよく書いている生徒数名に発表させるとともに、教師が感想交流会を通して気付いた各グループの共通点や相違点を述べ、感想交流会全体の価値付けをする。 ○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、「感想交流会を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができたか」という視点で振り返りシートに記入させる。 	

エ 板書計画

	<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」⑨</p> <p>本時のめあて</p> <p>☆ 感想交流会をして、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>
--	--

(10) 第 10 時

ア 本時の目標

- 物語に表れているものの見方や考え方について整理し、人間や社会等について自分の意見をもつことができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
読む能力	物語に表れているものの見方や考え方について整理し、人間や社会等について自分の意見をもっている。	「故郷」のテーマを自分なりに捉え、そのテーマに対する自分の考えを、根拠を明確にして書いている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時までの振り返り、本時の目標を知る。	○ 前時までの学習の積み重ねが感想文に生きることを理解させるために、「考えを深める言葉」を使って考えを深めることができていたグループの発表をモデルとして紹介する。	
		学習したことをもとに感想文を書くことができる。	
展 開	2 本時の学習の見通しをもつ。 3 感想文を書く。	○ 本時の学習の見通しをもたせるために、絵本を題材とした感想文のモデルを示し、書く際のポイントとその具体を捉えさせる。 ・「故郷」のテーマを自分なりに捉えること。 ・そのテーマに対する自分の考えを書くこと。 ・根拠を明確にして書くこと。 ○ 単元を通して広げたり深めたりしてきた「故郷」についての自分の考えを踏まえて書けるよう、これまでの学習で記述した「考えの形成シート」や感想交流会での気づきを書いたメモを参照させ、「話題Ⅰ」(最も重要な場面はどこか等)について考えたことと「話題Ⅱ」(「故郷」が教えてくれること)について考えたことを繋げて感想文を書くよう指示する。 C：感想文の構成を教え、それに沿って書く内容を箇条書きで整理させる。 ①私は「話題Ⅰ」(「故郷」の中で最も重要な場面はどこか等)について、初めは～と考えていたが、交流を通して～という考えになった。 ②その理由は、～。	読 A：「故郷」のテーマを自分なりに捉え、そのテーマに対する自分の考えを、これまでの考えの変遷を踏まえながら根拠を明確にして書いている。 B：「故郷」のテーマを自分なりに捉え、そのテーマに対する自分の考えを、根拠を明確にして書いている。 (感想文)

		<p>③このことを踏まえて、私は「話題Ⅱ」（「故郷」が教えてくれること）は～だと考えた。</p> <p>④「故郷」から学んだ～を、私は今後～に生かしていきたい。</p>	
まとめ	4 本時の振り返りをする。	<p>○ めあてと振り返りに一貫性が出るよう、「学習したことをもとに感想文を書くことができたか」という視点で振り返りシートに記入させる。</p>	

エ 板書計画

	<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」⑩</p> <p>本時のめあて ☆ 学習したことをもとに感想文を書くことができる。</p> <p>〈感想文を書く時のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「故郷」のテーマを自分なりに捉える。 ○ そのテーマに対する自分の考えを書く。 ○ 根拠を明確にして書く。
--	--

(11) 第11時

ア 本時の目標

- 単元を振り返り、自分の考えの広がりや深まりを自覚し、学習したことを価値付けようとするこゝができる。

イ 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な生徒の姿
関心・意欲・態度	単元を振り返り、自分の考えの広がりや深まりを自覚し、学習したことを価値付けようとしている。	単元全体を振り返り、自分の考えを広げたり深めたりするために「考えを深める言葉」がどのように役立つかを、振り返りシートに書こうとしている。

ウ 本時の学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	1 前時までの学習を振り返り、本時の目標を知る。	○ 前時までの学習の成果を実感させるために、前時に書いた感想文の中から自分の考えを広げたり深めたりすることができるものを紹介する。その際、自分が学んだことを整理することで今後の学習や生活に生かしていけることを伝える。	
	単元全体を振り返って、自分が学んだことを書くことができる。		
展 開	2 本時の学習の見通しをもつ。	○ 本時の学習の見通しをもつために、これまでの学習で用いた「考えの形成シート」を参照して、物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりするために学習したことを確認し、それらが自分の学びを振り返る視点となることを説明する。 ・ 作者の工夫に気付くこと ・ 作者の工夫の意味を「質問」「関連付け」「推測」等の「考えを深める言葉」を使って考えること ・ 考えたことを繋げて、作品全体のテーマを自分なりに捉えること	
	3 モデルとなる感想文の良い点を考え、共有する。	○ 自分の学びを振り返る際の視点を具体的に理解させるために、絵本について書いた感想文の中で、初読の感想文からの変容が大きいものを例示し、説明が詳しくなっているところや、知識や経験との関連付けができているところ、作品全体のテーマを捉えて書いているところを指摘させる。	
	4 単元全体の振り返りを書く。	○ 自分の学びを自覚させるために、「故郷」	関

		<p>について書いた初読の感想文と前時に書いた感想文を比べ、自分の考えの説明が詳しくなったところや自分の知識や経験と関連付けて書いているところ、作品のテーマを捉えて書いているところに線を引かせ、自分の考えの変容についての気付きを書かせる。また、「考えの形成シート」を参照させ、どの付箋が特に自分の考えを広げたり深めたりすることにつながったのかを確認させる。</p> <p>C：「どの付箋について考えたときに、この考えが付け足されたのだろう」等、具体的な活動場面を想起させるやりとりを口頭で行い記述させる。</p>	<p>A：単元全体を振り返り、自分の考えを広げたり深めたりするために「考えを深める言葉」がどのように役立ったか、今後どのように生かしていくかを振り返りシートに書くようにしている。</p> <p>B：単元全体を振り返り、自分の考えを広げたり深めたりするために「考えを深める言葉」がどのように役立ったかを、振り返りシートに書くようにしている。</p> <p>(振り返りシート)</p>
まとめ	6 単元のまとめをする。	○ 単元を通じて学んだことが今後に生かせるよう、文章を読むときに「考えを深める言葉」を意識し、考えを広げたり深めたりすることを継続して欲しいという教師の願いを伝える。	

エ 板書計画

<p>感想交流会をしよう 物語を読んで自分の考えを広げたり深めたりする</p> <p>「故郷」⑪</p> <p>☆ 本時のめあて 単元全体を振り返って、自分が学んだことを書くことができる。</p>
--